

ユニバーサルシートって、何？ 誰でも安心して外出できるように

市議会でも
話題に！

トイレは全ての人にとって欠かせない設備。高齢者や障害者、小さな子どもにとって外出時に利用できるトイレが見当たらない事は移動する際の大きな制約となります。車いすやベビーカーでも入ることができる広いトイレ、ベビチェアやおむつ交換台、オストメイト等が設置され、より多くの方が使える施設になってきていますが、それでもまだ外出先のトイレに困っている方はいます。その解決のひとつがユニバーサルシート。子どものオムツ替えだけではなく、高齢者や障がい者を含む、多くの人が共用できる介助用大型ベッドのこと。主に車椅子対応の広いトイレ内に設置されています。



▲ユニバーサルシート

2025年12月定例相模原市議会の一般質問で、五十嵐千代議員（中央区選出）がユニバーサルシートの整備状況について質問しました。相模原市の回答は次のとおり。

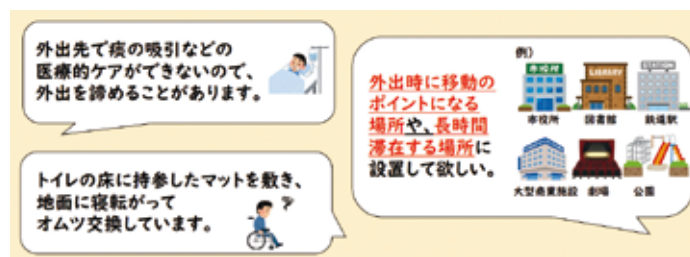
“県による調査結果で、令和7年1月現在、けやき体育館や相模原北警察署など11施設で設置しており、そのうち7施設で長さ150cm以上の大型シートを設置しているものと承知している。”

「市議会だより」より引用
<https://www.sagamihara-shigikai.jp/doc/2015073000015/>

神奈川県では2025年10月から当事者目線の障がい福祉推進条例の理念を踏まえた取組として、県全体で、ユニバーサルシートの設置を広く推進していくことになりました。設置届出を推奨し、設置個所の集約・公開を行っています。また、ユニバーサルシートの仕様や設置する際のポイントについて

①長さ150cmから180cm程度、幅60cmから80cm程度のものを推奨 ②車椅子からシートへの移乗動作や介助者の動作も考慮して設置位置を検討する ③折り畳み式を導入した場合の次の利用者のための折り畳み注意喚起等、きめ細やかな指針を示しています。

「相模原にはユニバーサルトイレ・シートがあちこちにあるから誰でも、誰とでも気軽に外出することができる」と多くの人が思えるまちになると嬉しいですね。



誰もが安心して自由に外出できる社会を目指して、
ユニバーサルシートの設置をお願いします。

▲神奈川県 HP より引用
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/101960/udchirashi2.pdf>

防災おたすけユニバーサルデザイン コミュニケーション絵本

災害時にコミュニケーションがとどこおることは、ひとりひとりの安全・安心に直結します。コミュニケーションの質を高め、命を守るために、ユニバーサルデザインの普及は必要不可欠。むしろ災害時にこそ、ユニバーサルデザインは力を発揮します。

2月21日大野北公民館で開催された「防災フェスタ（主催・大野北まちづくり会議）」では、わたしたちNPO法人ここずっとも出展し、UDトークの体験会を実施しました。UDトークは、消防署でも利用されている聴覚障害者とのコミュニケーション補助ツール。話した内容がリアルタイムで書き起こされ、非常時にも役立ちます。

本シリーズではそんなユニバーサルデザインの防災グッズを紹介していきます。

今回紹介するのは、たくみ21さんのアイデアグッズ、「コミュニケーション絵本」。会話が難しい方と円滑にコミュニケーションを取るために作られた筆談用絵本です。指さして簡単に意思疎通できます。避難所にあれば安心。また、こちらをヒントに、似たものをつくったりすることもできそうですね。



ユニバーサルデザイン

UD

2026 March

Vol.6

さがみはら

ユニバーサルデザインでインクルーシブ&ダイバーシティなまちづくり



▲料理実習を見守る盲導犬



◀全盲の難波創太さんが講師となって月餅づくり

車いす参加者もチャレンジ ▶



いま、UD を実践・展開する市民たち

- ユニバーサルデザインでチャレンジする
「こころの月餅づくり」
- 当事者市民たちが拓く わたしたちの暮らしやすさ
- わたしに使えるよう工夫した便利グッズは
誰にも使える UD 品質

UD（ユニバーサルデザイン）とは、
「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。

▲視覚障がい者の手を取りながら

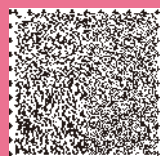


UD さがみはら vol.6 ■ 2026年3月25日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人ここずっと

〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646 FAX042-742-0447
<http://www.cocozutto.jp/>

UD さがみはらのバックナンバーの音声版は右記 QR コードの YouTube チャンネルから聞くことができます。

みなさまからのご意見や情報提供を募ります。
投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp



@ud_sagamihara

ud_sagamihara



この通信は、令和7年度市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」として地域包括ケア推進課とNPO 法人ここずっとが発行するものです。

UD を実現するのは 丁寧なコミュニケーション

お膳立てよりも 困りごとを楽しむ気概をもって みんなでコミュニケーションをつくる ——それこそがインクルーシブ

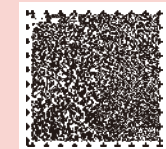
2026.02.08

映画『こころの通訳者たち』の出演者・難波創太さんを招いて
月餅づくり@ユニコムプラザさがみはら実習室

主催：NPO 法人ここずっと

ドキュメンタリー映画『こころの通訳者たち』は、映画の音声ガイドづくりを記録した作品です。この映画に出演する難波創太さんは39歳のときに事故で全盲となりながら、三軒茶屋で〈ボディケア・キッチンるくぜん〉を経営。映画の中では音声ガイドのモニターとなるだけでなく月餅づくりの講師となって登場しています。映画を鑑賞した市内中央区在住の車イスユーザーの女性から、「わたしは料理教室に参加しようとしても断られる。ぜひ、月餅づくりしてみたい」と声が挙がってから2年越し。企画の準備会ができたのは、2025年12月8日でした。そこで話し合われたのは、困ったことが起きたら楽しんでしまおうということでした。障がいとはチームの特性として話し合いながら身振り手振り、ホワイトボード、ジェスチャー、触覚などあらゆる手段を使ってコミュニケーションしよう。それでこそ、UD だし、コミュニケーションがインクルーシブを実現するのだから、一気にワクワクが視覚に高まりました。

しかし、迎えた当日は雪。恵まれない天候の中、車いすユーザーをはじめ次々と欠席の連絡がはいり、ワクワクはしばまざるを得ませんでした。それでも、講師の難波さん、アシスタントの近藤尚子さん囲んで、文字通り手とり足取りの月餅づくりを果たすことができました。案ずるより UD は易し。「楽しくて始まりになるような機会にしたいね」と UD 企画にチャレンジする下地になったことを実感しました。



▲25.12.08 の準備会のようす
いちばん左が難波さん
車椅子利用者の友人に同じく全盲の友人



特別扱いなのではなく環境の工夫がユニバーサルデザイン

ぴあっとは子どもたちの“みかた” だけでなく 誰にとっても“みかた” なのです



NPO 法人ぴあっと <https://npo-piatto.jp/>

組みではなく、多様な感じ方を前提に環境を整えていく考え方です。発達障がいの視点を意識することは、その考え方をより確かなものにしてくれるのではないのでしょうか。私たち一人ひとりが事例に学び、小さな工夫を重ねていくこと。その積み重ねが、誰にとっても過ごしやすい社会につながっていくのだと感じました。

中央区で始まった通学支援モデル

相模原市は屋外での移動に大きな困難がある障がい児を対象とする通学支援事業について、2025 年7月から試行的に実施しています。2026 年2月6日には「障がい児の通学支援を考えるフォーラム」（主催・相模原市）が開催され、NPO 法人ぴあっとから保護者の事例発表が行われました。通学支援制度を持つ自治体は全国 82 の政令・中核市のうち 35% の 29 市にとどまる（25 年7～8月時点）なか、インクルーシブ教育の考えを踏まえ、障がい児の学びの機会への参加を支援するとともに、子どもの障がいの有無にかかわらず、保護者の仕事と家庭の両立を促進していく取組みは頼もしいです。



例えば、同じ教室の音でも強い苦痛を感じる人がいることを体験的に紹介したり、感じ方の違いなどから食べられるものが限られてしまう子もい



NPO 法人ぴあっとは発達情報サイト「みかた」を開設しています。
“立場と所属の垣根を越えて手をつなぐ”ことを目指してきめ細かな情報サイトを運営しています。



URL:<https://hattatsu-mikata.com/>

わたしに使えるよう工夫した便利グッズは誰にも使える UD 品質

たくみ 21 <https://www.sagami-ortal.com/hp/blog/archives/922>

謎の器具が装着されたまな板。斜めに組み合わさった木製の器具には爪切りが接着されている。

これらは、淵野辺公園で開催されている「市民活動フェスタ」に遊びに行った時に「たくみ 21」のブースで目に止まったものです。

話を聞いてみると、片手が使えない方のための自助具だということがわかりました。自助具についてもっと詳しく知りたいと思い、事務局長の田村さんを訪ねました。

「僕ね、『ユニバーサル』ってあんまり好きじゃないんですよ、実は」

取材開始最初に田村さんが発したのがこの言葉。確かにたくみ 21 の製品は、使用者個人のニーズや特性に合わせた「その人専用」のものであって、「誰にでも使える」ものではないためユニバーサルデザインとは正反対なのかもしれ



たくみ 21 の田中さんご夫妻

ません。

『ユニバーサル（誰にでも）』の範囲を『どこまで広げるか』が大事。それでもどうしても漏れてしまう人がいる」（田村さん）

その漏れてしまった人が必要としているものを当事者と一緒に向きや角度、大きさや強度などさまざまな視点で試行錯誤して作る。そうして出来上がったものが冒頭のまな板や爪切りだったのです。

事業としてではなく、市民団体として自助具作りに取り組む「たくみ 21」。出来上がった製品はオーダーメイドにも関わらず、材料費と開発・製作にかかった時間等から算出した価格で購入することができます。

開発した製品の特許は取らないというのもたくみ 21 の特徴。

「必要とする人がいるのであれば、誰でも作ってほしい。安く作れるならその方が使う人も助かる。（自助具が）普及したら嬉しい」（田村さん）

展示会では来場者に「まだお世話にならないから」と言

われることもあるそうです。

しかし、いつどのような形で自助具が必要になるのかは誰にもわかりません。田村さんが自助具と出会ったのはお母様の関節リウマチ発症がきっかけ。自分や身近な人が「困ったな」という状況になった時に「こんな便利なものがある」「自助具を作ってくれる人がいる」ということを知っているのといないのとでは気持ちの持ちようも変わってくるのではないのでしょうか。

田村さんの最初の開発品である爪切りを使ったご依頼者さんは「何十年ぶりに麻痺してる方の爪を自分で切れた！」と大喜びしたそうです。

病気や怪我や加齢で体が不自由になったとしても、自助具を使って自分でできることが増えれば不自由は減り笑顔になれる。その笑顔が周りの人をまた笑顔にする。たくみ 21 は、自助具と共にたくさんのハッピーを作っているのです。



たくみ 21 さんの作業机

